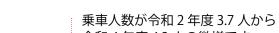
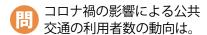


持続可能な公共交通を目指して





北川 克則議員 (令和新風加西)



北条鉄道の利用者数は、コ ロナ禍の影響で令和2年度 は大きく減少しましたが、令和4 年度は過去最高の 38 万 101 人と なりました。路線バスは、平成 28年度以降減少傾向にあり、さ らに令和2年度以降はコロナ禍の 影響により減少しましたが、令和 4年度の利用者はかなり戻ってき ています。タクシーは、コロナ前 の水準まで戻るのにもう少しかか る状況です。地域主体型交通の宇 仁ふれあいバスは、1日当たりの

令和4年度4.2人の微増です。

物価高騰の影響は。

神姫バスは、燃料費や人件 費の高騰等により、12月よ り運賃改定を実施する予定です。 コミュニティバスのねっぴ~号に ついても、神姫バスの路線バス運 賃の改定に合わせて運賃改定を行 う方向です。他の公共交通機関に ついては、物価高騰等の影響を踏 まえ、運賃改定の是非について慎 重に協議したいと考えます。

公共交通予算の動向は。

答 公共交通予算は、北条鉄道、 路線バス、コミュニティバ ス、地域主体型交通及び公共交通 会議への補助金となっています。 平成30年度は約1億円、令和4

年度は1億7,700万円と大幅に増 加しています。今後はさらに物価 高騰や人件費の上昇により、引き 続き増加傾向となると考えます。

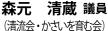
地域主体型交通の推進につ いて。

宇仁地区、日吉地区及び富 答 田地区での導入における課 題等を改めて整理し、今年度、導 入の手引を改正する予定です。ま た、導入に向けて検討されている 地域への支援を強化します。運行 している地域では、運行して初め て見えてくる課題等が多くあるこ とから、今年度は運営の手引を新 たに策定し、持続可能な運営がで きるよう環境整備を行います。

意見 『多様なニーズを捉え る』ことが必要と考え、『加西版 Maas プロジェクト』に取り組む ことを提案します。



新ごみ処理施設の建設、運営経費の負担区分は

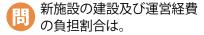


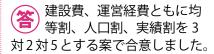
加西市は、小野クリーンセ ンターの廃炉の負担はない ということで加入し、加入後に取 得した資産に対する応分の撤去 費用は負担する。このことにこだ わってきたと思うが。

資産の計上について、加西 答 市は加東市、小野市の考え 方と異なっていましたが、増加し た資産については、廃炉に対する 費用として案分して負担すること は合意しています。

市長は管理者会でどのよう に主張されたのか。

(市長) 加西市の考えを述 べましたが、加東市との協 議結果も踏まえ、新施設建設に当 たって決断時期が遅れていること から、合意しました。管理者会で 合意した姿を示すことが非常に重 要だと考えました。





炉の本体以外の附帯施設に ついても同じ負担割合か。

新施設は、焼却やリサイク 新ル酸は、パープ ルに関する本体施設と附帯 施設があり、負担割合は同じです。 附帯施設としては発電施設、平時 はグラウンドゴルフ場として活用 される災害ごみの集積場となる芝

生広場、焼却余熱を活用した温水 プールの3施設を予定していま す。プールの運営経費の負担につ いては、設備管理を含めて今後協 議する必要があります。

廃炉の負担について伺う。 合意では、小野クリーンセ ンターが稼働した平成元年以降に おける3市のごみの累積搬入実 績の案分となっている。新施設の 完成見込みを令和17年とすると、 加西市の負担は 17.7%、8,800 万 円となる。これまで加西市がこだ わってきた内容と全く異なる決定 について、市長の思いは。

(市長) 加西市は加入時の負担がなく、20年近く使わせ ていただくことになります。加入 しなかった場合と比較して30億 円程度の負担減となっていますの で、相応の負担をすべきと判断し て合意しました。